

製品名: Skp1 p19 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17933**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	19kDa

抗原情報

遺伝子名	SKP1
別名	SKP1; EMC19; OCP2; SKP1A; TCEB1L; S-phase kinase-associated protein 1; Cyclin-A/CDK2-associated protein p19; Organ of Corti protein 2; OCP-2; Organ of Corti protein II; OCP-II; RNA polymerase II elongation factor-like protein; SIII; Transcr
遺伝子 ID	6500.0
SwissProt ID	P63208
免疫原	抗血清はヒト SKP1A/p19 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

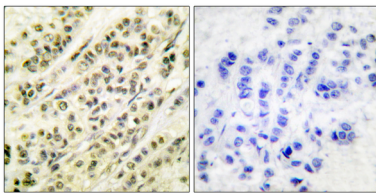
背景

この遺伝子は、このタンパク質、リングボックスタンパク質であるカリン 1、および Fボックスタンパク質ファミリーの1つのメンバーからなる SCF 複合体の構成要素をコードします。このタンパク質は、Fボックスタンパク質に含まれる Fボックスモチーフに直接結合します。SCF 複合体は、特定のタンパク質基質の制御されたユビキチン化に関与し、プロテオソームによる分解の標的となります。特定の Fボックスタンパク質はそれぞれ異なる標的タンパク質を認識し、細胞周期の進行と発達の調節因子を含む多くの特定の SCF 基質が同定されています。また、このタンパク質は RNA ポリメラーゼ II 伸長因子であることも研究で明らかにされています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、2つの転写バリエーションが生じます。関連する擬似遺伝子が 7 番染色体上に同定されている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能:細胞周期の進行、シグナル伝達、転写に関与するタンパク質のユビキチン化を媒介する SCF (SKP1-CUL1-Fボックスタンパク質) ユビキチンリガーゼ複合体の必須構成要素。SCF 複合体では、Fボックスタンパク質を CUL1 に連結するアダプターとして機能する。経路:タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。類似性:SKP1 ファミリーに属する。サブユニット:SCF 複合体において、CUL1 および BTRC や SKP2 などの Fボックスタンパク質と直接相互作用する。サイクリン A/CDK2 複合体と相互作用する。CUL7、RBX1、SKP1、FBXW8 からなる SCF 様複合体の一部。UBE2D1、SIAH1、CACYPB/SIP、SKP1、APC、TBL1X を含む E3 ユビキチンリガーゼ複合体の構成要素。

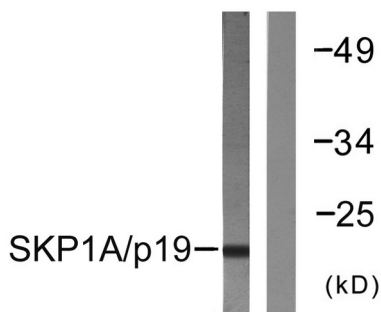
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;ユビキチン媒介タンパク質分解;WNT;WNT-T CELLTGF-beta;

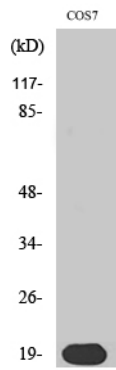
画像データ



SKP1A/p19 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



SKP1A/p19 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Skp1 p19 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析